

広島瀬祭米の会が山田錦栽培研修会を開催

【平成 29 年 8 月 28 日掲載】

山口県の旭酒造（株）へ酒米を供給している生産者が設立した「広島瀬祭（だっさい）米の会」（藤原博巳（ふじわらひろみ）会長，会員 25 経営体）が 8 月 8 日に三次市三良坂町で山田錦栽培研修会を開催しました。

旭酒造（株）が原料米確保のために山田錦の栽培生産者を探していたことから，平成 27 年に県内 25 経営体が山田錦の栽培を始めました。高品質な山田錦を安定的に供給するため，北部農業技術指導所が平成 27 年から 2 カ年の県中部地域での生育データ及び収量・品質データを蓄積し，作付体系の検討を行ってきました。研修会では北部農業技術指導所から山田錦の生育後半の栽培管理のポイントを説明した後，現地圃場で生育状況を確認し，意見交換を行いました。

藤原会長は「山田錦は長稈で倒伏しやすく，晩生品種のため登熟に日数がかかり栽培が難しいが，全国的に山田錦の作付面積が増加する中で，酒造会社には選ばれる産地になるためには，会員同士で切磋琢磨していい酒米を作っていく必要がある。そのために今後も継続してこのような研修会を続けていきたい。」と話されました。



【座学での栽培研修会】



【現地圃場での意見交換】